

調査速報

タイ自動車市場月次統計（2016年12月）

輸出減速が強まっており17年生産台数の200万台超えは容易ではない。国内販売は「量より質」が問われる。

主任研究員
深尾 三四郎
045-225-2375
fukao@yokohama-ri.co.jp

要約

- 16年12月国内生産（季調値）は前月比大幅減の年率169.2万台。内需が盛り返すも輸出が失速。
- 業界の17年生産予測は200万台だが、足元で輸出減速感が強まっており190万台以下に落ちるリスクも。
- 長期低迷後の内需回復局面では、シェア拡大を急ぎ収益性を犠牲にした販売強化が起こり易く要注意。

内需は5年ぶりに増加する見通し：注目点は大手自動車メーカーの国内販売シェアの見通し

タイ工業連盟 (Federation of Thai Industries: 以下、FTI) が発表した2016年12月の四輪車総生産台数は、前年同月比11.1%減少し、季節調整済年率換算値(当社試算、以下SAAR)も前月比12.5%減の169.2万台と大きく減少した。3か月後方移動平均値でみたトレンドは7月以降、減少基調が続いており、11月は久方ぶりに微増となったものの、12月は大きく失速した(図表1)。

12月生産台数の失速の背景には、輸出台数の大幅な減少がある。12月の総輸出台数は前年同月比0.6%減と6か月連続で前年割れとなり、SAARも前月比7.9%減の107.8万台と大きく減少した(図表2)。国王が薨去した10月以降、内需減少を抑えるために輸出生産を強めていると推察するが、中近東やアフリカでの景気悪化と南米の景気低迷などを背景に、新興国向けの輸出の弱さが引き続きタイの自動車輸出に強い逆風となっている。

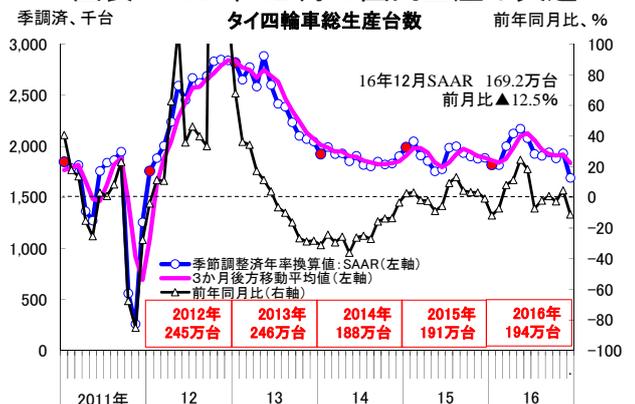
一方、12月の国内販売台数は前年同月比14.4%減と3か月連続で2桁%の減少となったものの、SAARは前月比10.1%増の79.8万台と5か月ぶりに増加した(図表3)。国内販売のSAARは10月、11月と2か月連続で70万台前半の水準にまで落ち込んでいたが、12月は80万台水準にまで盛り返した。12月の消費者信頼感指数は3か月ぶりに上昇し、内需の足かせとなっている消費ムードの減退は緩んだ(図表4)。

16年の総生産台数は194万台(前年比1.6%増)と2年連続で増加したが、総販売台数は77万台(同3.9%減)と4年連続で減少し、総輸出台数も119万台(同1.4%減)と5年ぶりの減少となった(図表5)。

なお、前回のレポートで(16年12月26日発行)、弊社予測の17年生産台数は197万台としたが、足元の輸出がかなり弱いため、国内生産が190万台以下に落ち込むリスクを想定する必要性を感じ始めている。

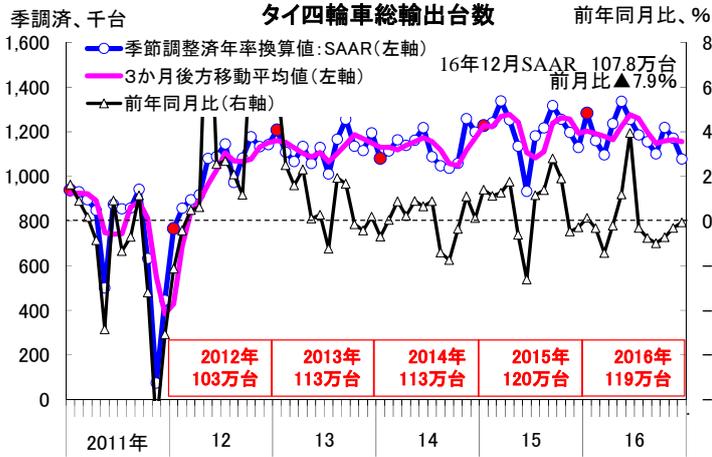
国内販売も楽観は禁物だ。5年前にインラック政権によるFirst Car Buyer Programme(初回購入者に一部税還付する自動車購入奨励策)で購入された車の買い替え需要が増加することから、2017年のタイ国内販売台数は5年ぶりに増加する見通しである。しかし、長らく減少傾向が続いていた内需が回復傾向に転じる局面では、大手メーカーがシェア獲得を狙って収益性を犠牲にした積極販売を強めるリスクが高まる。また、各社はここ1~2年の間に基幹車種のフルモデルチェンジを終えており、目下、新モデル投入効果を期待することが難しい中、タイ国内工場の稼働率を維持・向上させるために、輸出減少を国内販売の増加で補おうとする圧力も強まろう。17年の自動車メーカー各社のタイ国内販売では量よりも質が問われる。大手メーカーによるタイ市場の全需見通しよりも、シェアに対する考え方が注目点となる。

図表1 16年12月の国内生産は失速



注1: 赤塗リメーカーは各年の1月実績値。
注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

図表2 輸出台数 (SAAR) は前月比で大幅減



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

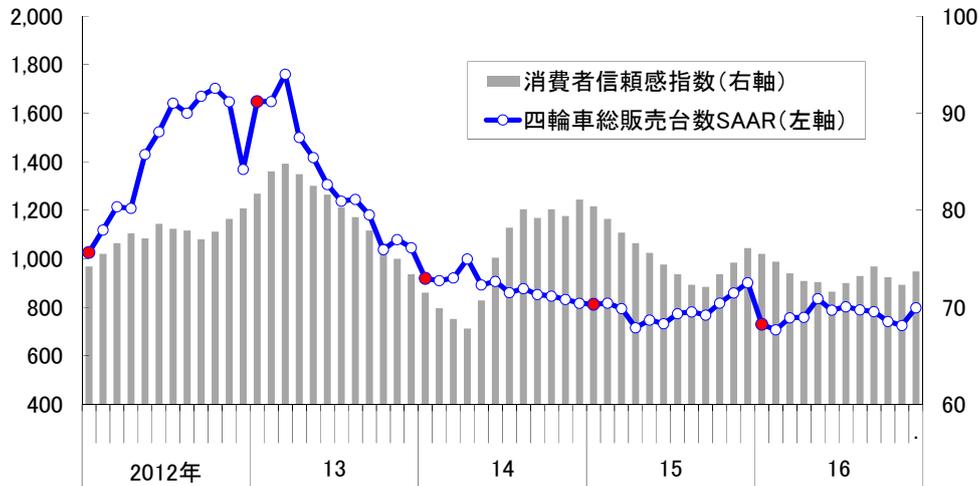
図表3 国内販売 (SAAR) は12月に盛り返した
タイ四輪車総販売台数



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industriesのデータを基に作成

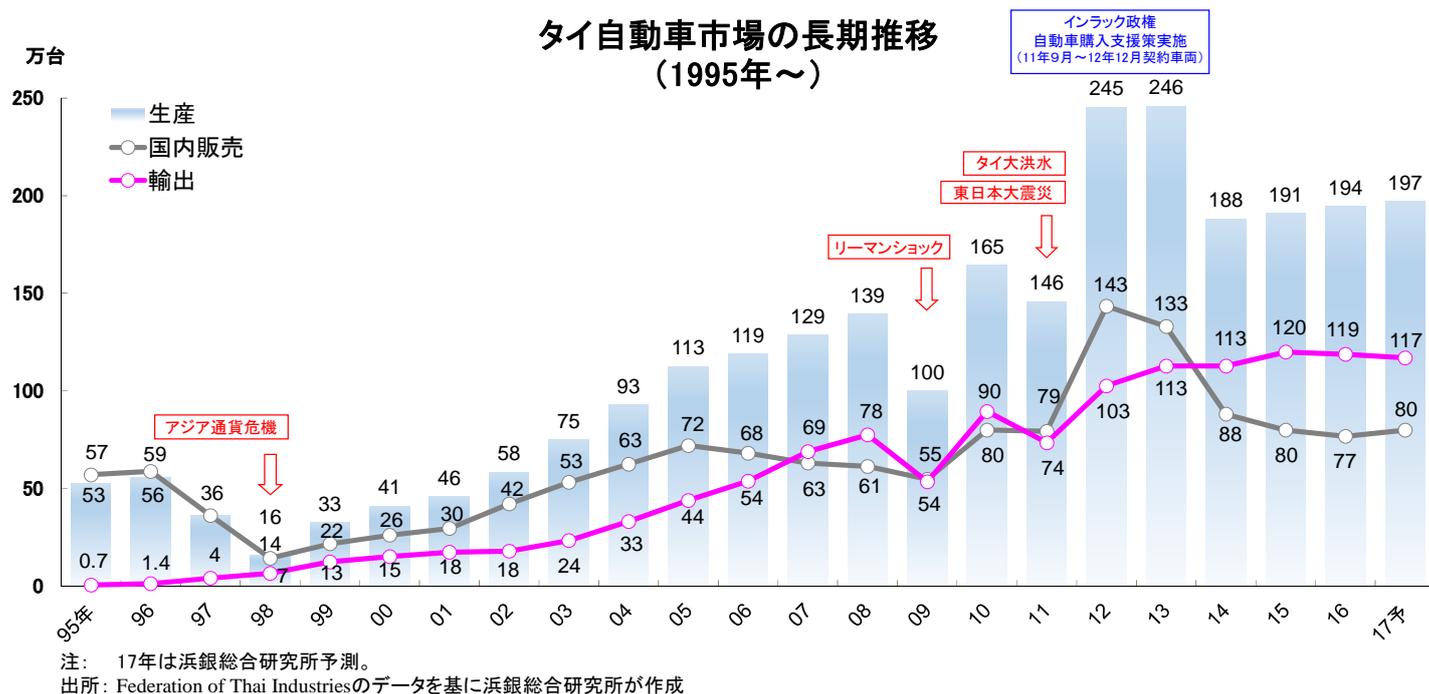
図表4 12月の消費者信頼感指数は前月比上昇

タイ四輪車総販売台数(SAAR)と消費者信頼感指数の推移



注1: 赤塗りマーカーは各年の1月実績値。
 注2: SAARは米センサス局法X-12-ARIMAにて浜銀総合研究所が試算。
 出所: Federation of Thai Industries、University of the Thai Chamber of Commerceのデータを基に作成

図表5 輸出減速感が強まっており、17年生産台数が190万台以下に落ち込むリスクを想定する必要あり



本レポートの目的は情報の提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。